

小規模事業者

経済動向調査報告書

<那珂市>

2025年10月～12月期

那珂市商工会

1. 目的

那珂市内の小規模事業者の景気動向等を分析し、その詳細な実態を把握し、市内小規模事業者に開示することで、経営に活用していただく。

2. 方法

市内の製造業、建設業、小売業（卸売業を含む）及びサービス業の小規模事業者から14社をサンプルとして選出し、聞き取り調査を行う。

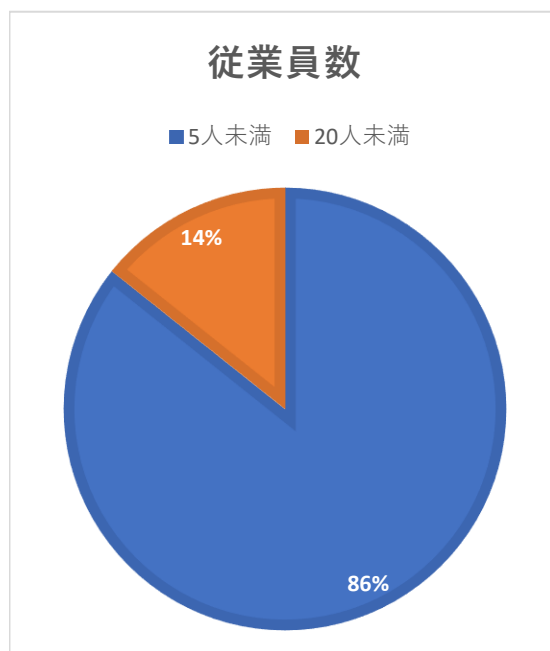
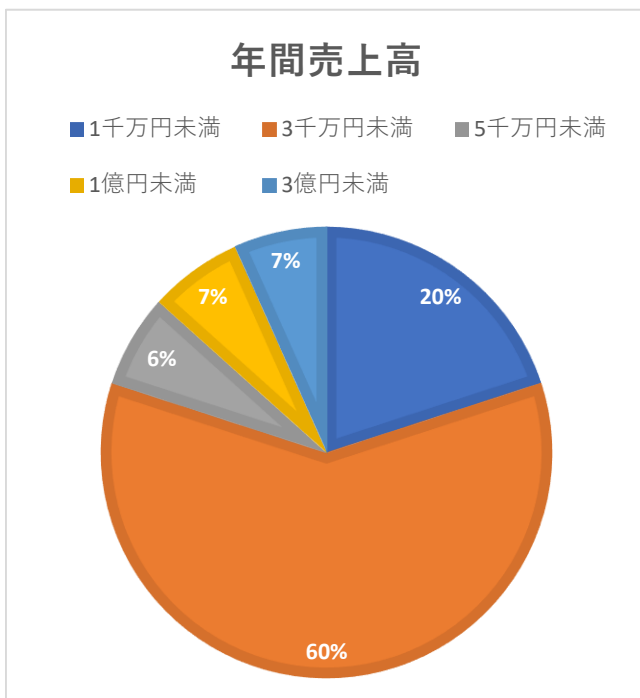
3. 調査事業者

- | | |
|---------------|----|
| ① 製造業 | 3社 |
| ② 建設業 | 2社 |
| ③ 小売業（卸売業を含む） | 3社 |
| ④ サービス業 | 6社 |

4. 調査項目

- ① 売上高、販売単価、経常利益、資金繰り、人材確保及び景況感を聴取し、業種別に比較。
- ② 近年の物価高の影響と対策について聴取し、業種別に比較するなど分析。
- ③ 国の補助金制度及び商工会の支援についての認知及び活用状況を調査。

5. 事業者の規模



I. DI 分析

表1：2025年10月～12月のDI

	合計	製造業	建設業	小売業	サービス業
売上高	-20.0%	0.0%	0.0%	-50.0%	-16.7%
販売単価	-6.7%	0.0%	0.0%	-50.0%	16.7%
経常利益	-33.3%	-66.7%	-100.0%	-25.0%	0.0%
資金繰り	-20.0%	-33.3%	0.0%	-25.0%	-16.7%
人材確保	-13.3%	-33.3%	-50.0%	0.0%	0.0%
景況感	-53.3%	-66.7%	-100.0%	-50.0%	-33.3%

- 前回（2025年7月～9月）と比較すると、売上高の低下については少し落ち着きをみせているが、景況感はさらに悪化している。
- 売上高の改善傾向については、前回顕著だった製造業及び建設業の売上高低下が一旦落ち着いたことが大きく影響している。
- 景況感については、これまで比較的安定していた製造業及びサービス業で悪化していることが影響している。
- 製造業は、売上高は改善しているにもかかわらず、経常利益の改善には至っていないことが、景況感を悪化させているように見受けられる。
- サービス業においては、これまでの比較的好調だった業績に陰りを見せており、これが景況感悪化につながっていると推測できる。
- 小売業は、相変わらず低位であり、逆境から抜け出せないでいる様子が窺える。

DI（業況判断指数）

景気局面の判断や、予測と景気転換点の判断に利用される景気動向指標のひとつ。業況下や景況感といった明確に数値化しにくい対象を、比較化することで景況を判定する。

「景気が良い」と感じている企業の割合から、「景気が悪い」と感じている企業の割合を引いたものをパーセンテージで表し、プラスは良好、マイナスは悪化として、その度合いで判定する。

II. 物価高騰の影響調査

図1 2025年10月～12月の仕入価格の高騰状況

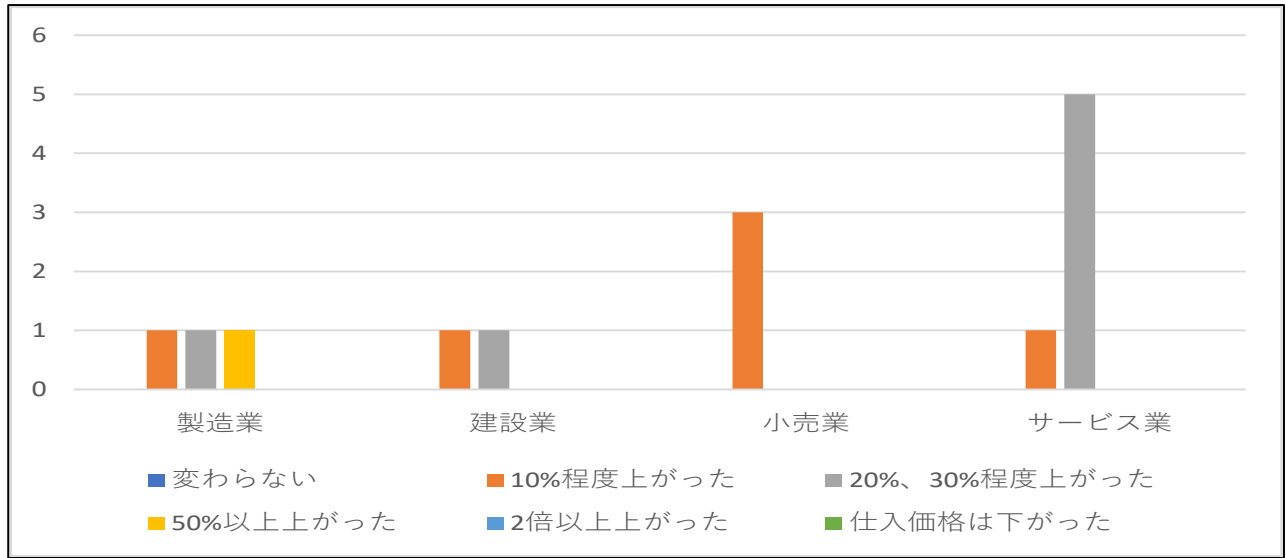


図2 2025年10月～12月の販売価格値上げ状況

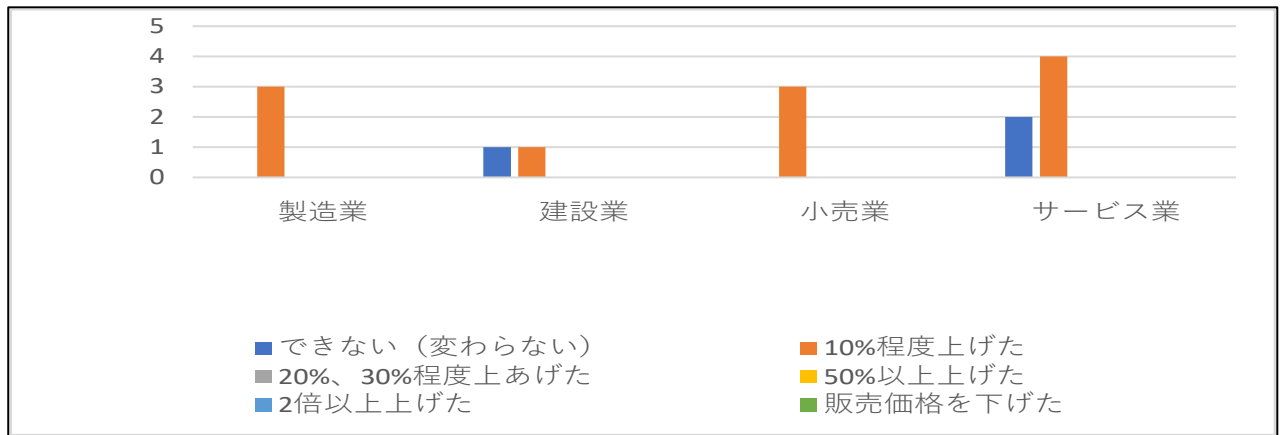
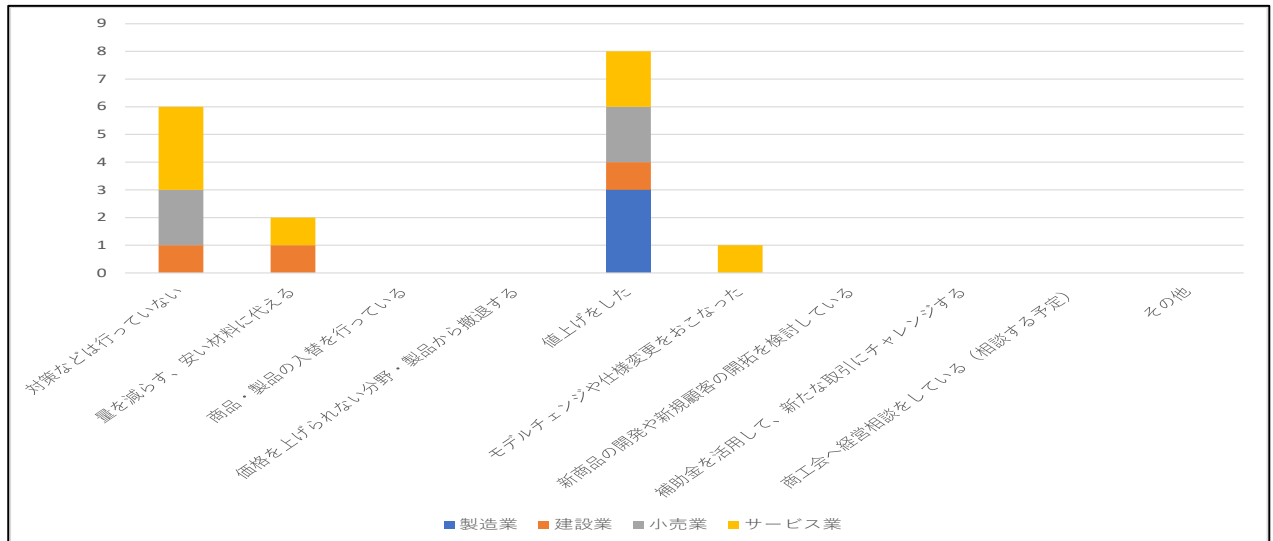


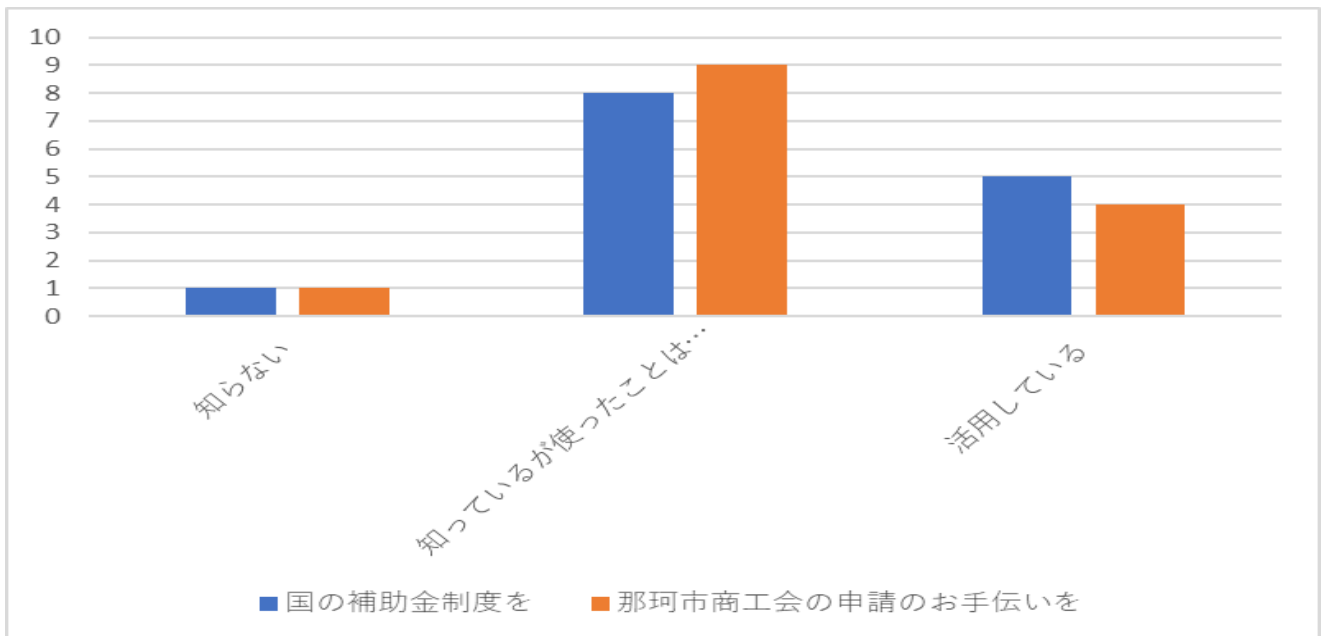
図3 2025年10月～12月の物価対策



- 仕入価格の高騰については、改善傾向にあったサービス業において、再び高騰が再燃している様子が窺え、20%、30%程度の値上げが大幅に増えている。このことも、販売単価の改善にもかかわらず、業績や景況感が低下している背景としてありそうだ。
- サービス業では、この仕入価格高騰に対抗するため、再び値上げする企業も増えている。また、モデルチェンジ・仕様変更で対応を試みる企業も現れた。
- 製造業、建設業、小売業については、仕入価格の高騰、値上げ物価対策ともに、ほぼ前回と同様であり、年間を通じて状況の変化は寡少である。

Ⅲ. 国の補助金制度の活用

図4 国の補助金制度及び商工会支援についての活用状況



- 国の補助金制度や商工会によるその申請支援については、ほぼ周知されている様子が窺える。
- ただし、活用している企業はその約3分の1である。残り3分の2は存在を知っているが、活用には至っていないようだ。
- また、補助金を活用している企業数と商工会の支援を受けている企業数がほぼ同数であり、商工会の支援をうまく活用して補助金を獲得、活用している様子が窺える。ただし、前回に比べ、少しだけ商工会活用する企業が減っており、自ら申請に挑戦する企業も増えているようにも見てとれる。

以上